

兵庫県ブラジル事務所

GOVERNO DA PROVINCIA DE HYOGO-JAPAO ESCRITÓRIO NO BRASIL

ジャパン・ハウス サンパウロと連携した兵庫県地場産品の販路拡大支援

(1)世界初のジャパン・ハウスがサンパウロに開館

コロニア（ブラジルの日系社会）の2017年10大ニュースで1位に選ばれたのが、「サンパウロ市に世界初のジャパン・ハウス（JAPAN HOUSE、以下JH）が開館」でした。多目的ホール、大きな展示スペースを備えた3階建てで、4月末の日伯両国の政府要人が出席した開館式に続き5月6日に一般公開されました。入場者は半年間で50万人（当初目標：年間13万6千人）を大きく超え、数多くの著名人も訪問するなどブラジル国内で大きな反響を得ています。

※「ジャパン・ハウス」

外務省が、戦略的対外発信の強化に向けた取り組みの一環。日本に関するさまざまな情報がまとめて入手できるワンストップ・サービスを目指し、レストラン、ショップ等も設置し、民間の活力、地方の魅力なども積極的に活用したオールジャパンによる「世界を豊かにする日本」を発信することをコンセプトに、今後ロンドンおよびロサンゼルスに設置予定。

(2)JH館長の県内地場産品視察を実現

JH内には「FUROSHIKI」「SHIN」のショップ2店がありますので、当事務所としては兵庫県地場産品の販路開拓支援が課題となります。平田アンジェラJH館長が訪日する機会に、「和紙」「織物」「清酒」をテーマとした県内視察を働き掛け、県国際交流課、北播磨県民局、西宮市等の協力を得て、杉原紙研究所、播州織「玉木新雌（tamaki niime）」、清酒「白鹿」などの視察が2017年7月に実現しました。

平田館長は「大変興味深く見せていただきました。日本の伝統的産業の歴史と、そのコンテンポラリー、イノベーションをJHの展示により、世界の皆さまにご紹介したい」と感想を述べられました。JHへ本県の文化・歴史を理解いただく絶好の機会になるとともに、

JH内ショップ「SHIN」でも「白鹿」や「白鶴」など灘五郷の清酒販売が開始されるなど、具体的な成果もありました。

(3)JHサンパウロでの県内地場産品の販路開拓支援

「FUROSHIKI」での播州織「tamaki niime」15点の試験販売は「即日完売」であり、「店では伝統に裏付けされたイノベーション作品を集めて販売しています。『tamaki niime』の作品は、この店にぴったりであり、必ずお客様に喜んでいただけます」と絶賛されました。「玉木新雌（tamaki niime）」は、これを契機に正式に「FUROSHIKI」と契約を交わし、初の南米進出を実現しました。

現在の販売状況について照会したところ、灘の清酒の販売は順調であり、他方、播州織「tamaki niime」については、夏季に入ったこともあり、当初の入荷即完売状態とまではいかないものの、安定しているとのこと。また、商談中の杉原紙や豊岡鞆についても、JHと連携して販売実現に向けて引き続き支援を行うこととしています。



JHサンパウロで播州織をPRするマネキン（左手前）

兵庫県ブラジル事務所（GOVERNO DA PROVINCIA DE HYOGO-JAPAO ESCRITÓRIO NO BRASIL）

Av.Comendador Franco, 871-Palácio Hyogo Jardim Botânico, Curitiba, Paraná, Brasil

TEL +55-41-3363-3090 / +55-41-3362-1990